

ROBOT

ORANGE CUP 2018

第8回 アイデアのタネコンテスト

Title and Catchphrase

御恩と奉公から学ぶ人間関係を形成するロボット

若旦那

鳥飼 千歳

神奈川県立神奈川工業高等学校

アイデアのタネ

子どもが何かを教えてあげられる相手が減っていることに着目しました。
少子高齢化の現代で、子供が何かを教えてあげられる相手が減っていることを問題視して、このロボットを考えました。

何をしてくれる？

何をするにも、自分が教えないと何も出来ません！

このロボットは主人(子ども)に物事を教えてもらうことで、段々と活躍できる場面が増え、主人と一緒に成長していくロボットです。主人に教えてもらうこと、お世話してもらうことを〈御恩〉、教えてもらったことを使って主人を助けようとする〈奉公〉。この二つで関係を作っていきます。主人に責任感が育まれたと感じると自動でシャットダウンします。～才頃はこうだった、という記憶はメモリーに保存されるので、後から見ることができます。メモリーを入れ替えれば初期状態に戻るので、親から子どもに、その子どもの子どもにと何世代も繋いでくれます。

若旦那

子どもを“教える”
立場にすることで
責任感を育てます

対象年齢：6～13才

子どものヒザ下位のサイズ



初期状態ではルールや物の使い方など、何も知りません。



教えてあげたりお世話をすることであなたを信頼していきます。

してあげないと...



動かなくなります！
▲ 連携しているスマホに報告します

メモリーを入れ替えると初期状態に戻ります。



メモリーはカバンに保存しましょう。

責任感の成長を感じるとシャットダウンします。

教わったことを使ってあなたを助けてくれたり、手伝ってくれます。

